

2.2.2 管理調整部

アジア太平洋地域の経済環境変化等が国際物流に及ぼす影響に関する研究

Impact of economic partnership and other policies in Pacific-rim countries on international logistics

(研究期間 平成 28 年度～)

管理調整部 国際業務研究室

研 究 官 寺西 裕之

[研究目的及び経緯]

世界経済のグローバル化が進むなか、我が国を含む北東アジア・東南アジア地域においても経済成長に伴う貿易の拡大や経済連携が進展し、新たな産業の展開や技術革新、物流インフラ整備等の経済環境変化等は、国際海上輸送等の国際物流に急速かつ大きな変化をもたらしている。

このため、グローバルな視点から経済連携や産業展開の進展、各国の政策やインフラ整備等の情勢を踏まえて、その国際経済・貿易活動に及ぼす影響を把握し、国際海上輸送を中心とした国際物流の動向等を分析していくことは、わが国港湾の国際競争力の強化等の港湾政策や、海外へのインフラの輸出政策を推進する観点から必要不可欠である。

本研究は、主にアジア太平洋地域の国際物流に影響を与える経済環境変化等を踏まえて、国際船舶の動静に係るデータ等を分析し、国際海上輸送に関する今後の動向や物流インフラの将来の課題等を検討するものである。本研究で開発した船舶動静データの分析技術については、J I C Aの技術協力を通じて、スエズ運河岸における一部複線化が完了した運河の利用促進のための取り組みに協力した。

今年度は、そのデータ分析手法の改良を図りつつ、2010年代にシェール革命が進展しているアメリカにおいて石油・天然ガス（LPG、LNG）の生産・輸出の増加、国内で余剰となった石炭の輸出の増加等の輸出貿易の変化を踏まえて、また、パナマ運河の拡張（2016年）という輸送環境変化を踏まえつつ、パナマ運河等に関連するLPG船、LNG船、及び石炭等が輸送されるドライバルク船の動向や経路選択の特徴、輸送環境変化のアジア太平洋や我が国への影響（受益）について、さらに、物流インフラの将来の課題を把握するため、パナマ運河、代替経路となるスエズ運河等の海外インフラシステムの潜在的な需要への示唆等について、分析を行っている。